

2 都市の将来像

1 . 将来都市像

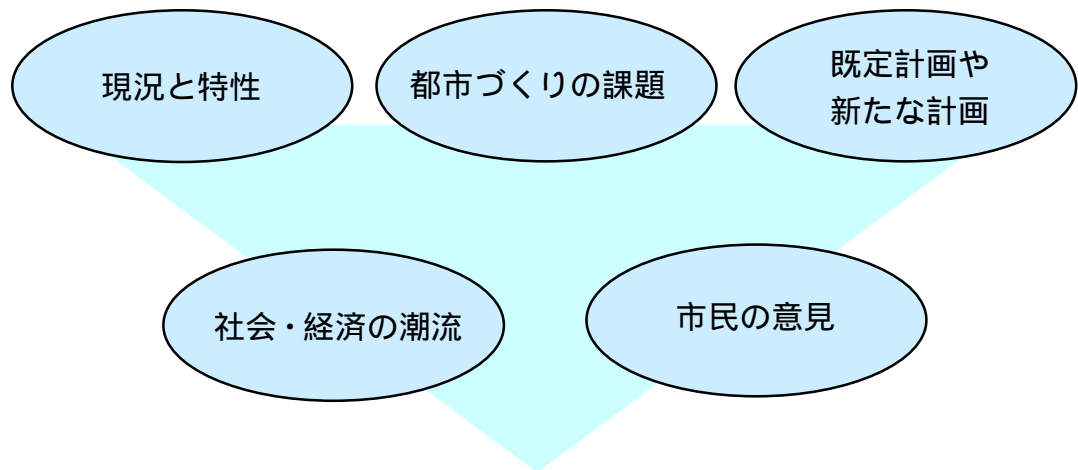


この将来都市像は、これからの都市づくりにおいて、ともに目指していく、将来の都市の姿です。

都市計画マスタープランは、総合計画における「都市計画」の分野を具体化する計画であるため、「市川市総合計画」に定められている将来都市像を共有します。

2. 都市づくりの目標

都市づくりの目標は、将来都市像を実現するための指標となるものです。本市の現況と特性、都市づくりの現状と課題、少子高齢化等の社会的潮流を踏まえ、また、将来の望ましいまちづくりに向けて身近な課題へ対応するなど、持続的に発展する都市という大きな視点を大切にとらえて定めます。



視 点

歴史・文化に根付いた都市イメージの確立
 自然環境との調和・再生・活用
 交通体系の確立
 安心して暮らせる都市の形成
 地域の個性を活かした豊かな生活空間の形成
 環境に配慮した都市づくりの推進
 市民・事業者、行政との協働

都市づくりの目標

■ 活力・住みやすさを持つバランスのとれた魅力ある都市づくり

都市の成り立ちや地域の「生活・文化・産業・自然」などの特性を踏まえた適切な土地利用を進め、住みやすく快適で活力のある都市づくりを進めます。

■ 歴史・文化・自然を活かし潤いと安らぎのある都市づくり

「変化に富んだ地形」や、これまでの都市の変遷で培われてきた「歴史を偲ばせる寺社や街並み」と「先人達の活動による優れた芸術や文化」を活かしつつ、残された貴重な「水や緑の自然環境や歴史文化資源」と共生する美しい都市づくりを進めます。

■ 都市基盤が整い安全に安心して暮らせる都市づくり

都市の防災性を向上させるとともに、道路・公園・下水道などの都市基盤の整備を進め、人や自然にやさしく、また、コミュニティが生まれる安全に安心して暮らせる都市づくりを進めます。

■ 都市活動や日常生活を支える交通環境の充実した快適な都市づくり

多くの人が集まる拠点の環境整備や道路網を整備するとともに、公共交通機関の充実を図り、市民の生活や活動を支え交流を育む都市づくりを進めます。

■ 市民・事業者、行政の協働によるまちづくり

市民・事業者、行政が目指す都市の姿を共有し、それぞれの役割のもと、ともに考え、行動する、「協働」によるまちづくりを進めます。

3. 将来都市構造

将来都市構造は、市域全体の特徴や骨格をおおづかみに表し、目指すべき将来の都市の姿をわかりやすく描くものです。

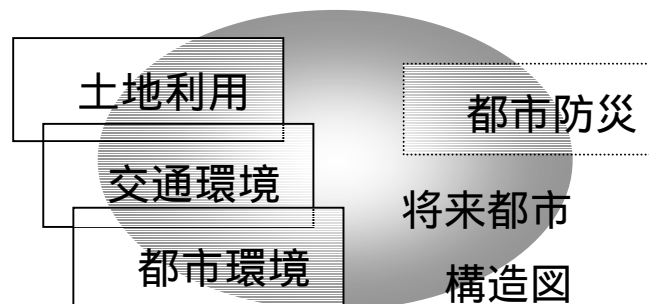
このことから、首都圏における本市の役割を踏まえ、市域全体の視点から将来の都市の姿を描くとともに、地域の特徴や思いを反映し描きます。

本市は、南北に長く、また、鉄道駅を中心に急速に都市化が進められたため、道路や鉄道等の都市を支える骨格的な交通ネットワークが不十分であり、拠点相互の連携や地域と拠点との結びつきが弱いなどの課題を残し、市域全体の魅力や活力、また、防災性を高める都市構造が必要となっています。

東京都に接する千葉県緑豊かな玄関口であることを背景に、安定的な成長が期待される都市として、社会経済情勢や市民ニーズの変化、自然との共生、歴史や文化、そして市民生活に配慮し、都市機能の適切な分担と充実を図り、さらに、潤いと魅力ある都市空間を形成する、均衡のとれた都市構造を目指します。

将来都市構造の描き方

都市を構成する「土地利用」「交通環境」「都市環境」に、都市の安全性を受け持つ「都市防災」の観点を加味し、都市機能や自然環境が集積する「拠点」、また、これらの拠点を結び連続する都市空間を形成する「軸」、さらに本市の特徴が集約する「エリア」により描きます。



将来都市構造図

都心に近接し、鉄道交通が行き交う市川。この恵まれた立地の中で緑や河川・海といった自然や、寺社や史跡が織り成す豊かな文化。それらを市民が味わい、親しみ、愛しみながら、生活や様々な活動を営み続けられる将来のまち。



都市の拠点

- 都市拠点 ●
- 地域拠点 ●
- 工業・流通拠点 ●
- 緑の拠点 ●
- 水辺の拠点 ●
- 海辺の拠点 ●

都市空間軸

- 都市軸
- 連携軸
- 水と緑の空間軸 (河川)

- 鉄道
- 道路
- 北千葉道路
- 第二海岸道路(構想)

将来都市構造図は次の要素で表現しています

都市の拠点

本市における都市活動や産業、自然環境の中心的な役割を担い、バランスのとれた土地利用の核となる場所を拠点とします。

都市拠点

商業・業務・行政・文化等の様々な機能が集積し、人・もの・情報が行き交う都市の発展を支える中枢となる場所です。

多様な機能が集積し、多くの人々が利用する交通結節点となる駅及びその周辺に配置します。

地域拠点

主に地域住民の日常生活に必要な機能が集積し、地域における生活を支える場所です。

地域住民が利用する鉄道駅周辺に配置します。

工業・流通拠点

活力ある工業・流通業務機能が集積する、都市の産業を支える場所です。

既にこれらの機能が集積し、今後、広域交通機能等の優位性を活かした更なる発展が見込まれる場所に配置します。

緑の拠点

広がりのある緑の空間で、市民の憩い・自然との触れ合い、環境学習やレクリエーション、さらに防災機能を担い、市民生活の安らぎと安全性を支える場所です。

大規模公園や緑地等を中心にその周辺を含めて配置します。

水辺の拠点

治水機能の確保や多自然型の良好な水辺環境整備が行われ、市民が憩い、水と親しみ、環境学習する機能を担い、市民生活の潤いと安全性を支える場所です。

大柏川第一調節池及び国分川調節池を中心にその周辺を含めて配置します。

海辺の拠点

かつての豊かな海が感じられ、その環境に触れ、親しみ、交流や環境学習、また、レクリエーション機能を持つ場所です。

三番瀬とともに市川塩浜駅周辺に配置します。

都市空間軸

都市全体や地域の連携を強化するとともに各拠点を結び、また、水と緑の機能、防災やコミュニティ機能、交通機能を担うとともに周辺の土地利用を誘導し都市の発展を支える連続した空間を都市空間軸とします。

都市軸

市全体の発展を支え、市域的な防災、水と緑の環境、交通、交流等の様々な機能を担う空間です。

市域を南北または東西に結び、拠点間を連絡し、また、拠点と一体的に都市機能や環境機能、防災機能が形成されるように配置します。

連携軸

都市軸を補完するとともに地域を結び、地域の防災やコミュニティの機能を担い、地域における生活や活動を支える空間です。

都市軸や各拠点の位置を踏まえて配置します。

水と緑の空間軸

広がりのある江戸川や旧江戸川、市街地内の河川は、防災機能とともに、都市生活における潤いと安らぎを担う空間です。

市域を流れる大小様々な河川とその周辺を含めて配置します。

エリア

地域の代表的な緑や水辺、歴史や文化資源が集まっている環境を「守り」「育て」「活かし」「継承」していくためにエリアとして表します。

台地と谷津を活かしたエリア

北東部に広がる農地や里山の風情ある自然環境と景観を積極的に維持するとともに、台地や谷津を活かした大町公園を核に、自然と親しみレクリエーション機能を担う場所とします。

水辺と台地を活かしたエリア

江戸川と台地の緑が織り成す景観と、地域の中に点在する歴史的資源を守り、活かし、つなぐことにより、自然や歴史に触れ合い、交流する機能を担う場所とします。

江戸川を活かしたエリア

都市の中における連続した広がりのある景観や水辺の自然環境を活用し、市民が気軽に楽しめるレクリエーション機能を担う場所とします。

海辺を活かしたエリア

かつての豊かな海を再生し、内陸部の行徳近郊緑地との一体的な活用により、自然と親しみ交流する機能を担う場所とします。

黒松や寺社等の歴史と文化を活かしたエリア

寺町の歴史と伝統を活かしたエリア

先人達が守り、育んできた地域の魅力的な歴史や文化、また黒松や巨木等を後世に継承する場所とします。

地域の将来構造から

地域の特徴のネットワーク

地域の懇談会で描かれた、水や緑の資源を活かした特徴を「地域の特徴のネットワーク」として構造図に表現します。